

# 平成 9 年度通常総会 新会長に斎藤惇生副会長を選出



平成 9 年度の新会長以下理事・評議員を選出

大屋梯二総務担当常務理事、同年度収支決算、財産目録(いずれも別掲)を吉永英明財務担当常務理事が詳細に説明。主な事業は K2 登山隊壮行会(五月)、台湾訪日団歓迎会(七月)

①平成八年度事業報告(別掲)を  
②平成九年度事業計画(案) および  
③平成九年度役員改選の件 ④平成九年度除籍者の件 ⑤その他、について慎重  
審議を行い、いずれもこれを原案ど  
おり可決、承認された。

## ■平成八年度の事業および 収支決算報告

平成九年度通常総会が五月十七日、東京・千代田区三崎町の東京グリーンホテル水道橋で開かれた。

この通常総会には会員百七十名が出席、議案①平成八年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件

も初めて三〇〇万円を超えた。  
一方支出では、予算額七九八八万七〇〇〇円に対し決算額は九九八〇万六六三円で、一九九一万三六六三円の増加。ただし予算に計上されていない特定預金支出を差し引いての支出は、予算額に対し実質九九・八パーセントで、とくに目立つものは

カトマンズでのマナスル登頂四十周年ネパール事業(十月)、同記念展(十一月)など。  
収支決算では、収入が予算額七十七万二千元に対して決算額九九七五万七三四円で、二二〇三万七三四円の収入増。これは予算に計上されていなかった補助金、寄付金収入に加え、終身会費が大幅に増えた会費・入会金収入、頒布品、マナスルビデオ販売手数料による事業収入、隣接ビルによる日照権補償などの雑収入が寄与しており、山研使用料収入



1997 年(平成 9 年)  
7 月号(No.626)  
社団法人 日本山岳会  
The Japanese Alpine Club  
定価一部 150 円

## 目 次

平成 9 年度通常総会…………… 1  
平成 9 年度理事・監事・評議員… 3  
会長就任にあたって…………… 4  
追悼・クリシュナ・B・バルマ氏 5  
平成 8 年度事業報告…………… 6  
収支計算書・正味財産増減計算書 7  
貸借対照表・財産目録…………… 8  
平成 9 年度事業計画(案) …… 10  
平成 9 年度収支予算書(案) …… 11  
報告  
科学委・連続講座/夏山気象入門  
第 1 回/雷放電と安全対策………… 12  
集委委・第 21 回若葉会山行………… 13  
海外の山・ロシア流儀…………… 15  
東西南北  
2300m 級の山…………… 14  
ウエストーンが著書を…………… 15  
俳句・知床羅臼岳…………… 16  
俳句・木暮先生碑前懇親会………… 16  
FYAMAP 表彰と楽しみ方 …… 16  
再び「マナスルに立つ」を見て 16  
俳句・山開き…………… 17  
支部だより…………… 18  
北海道支部 岐阜支部  
山と医療・中高年の高度順化………… 19  
図書紹介…………… 20  
新入会員…………… 21  
会務報告・会員異動…………… 22  
ルーム日誌・INFORMATION …… 23

- ▶日本山岳会事務取扱時間  
月・火・木・土曜日 10~20時  
水・金曜日 13~20時
- ▶図書室開室時間  
日曜・祭日・月曜日を除く毎日 13~20時
- ▶ルーム夏休み 8月11日~16日

マナスル登頂四十周年記念事業などの事業費、一〇四号室全面改装による運営管理費のうちの修繕費など。

財産目録では資産合計三億八三一萬四四一円、負債合計七九四万四三三〇円、差引正味財産三億七五一七万八八円である。

これに対して川崎徹監事から、平成八年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めるとの報告があった。

#### ■平成九年度の予算は収支均衡型

平成九年度事業計画(案)および同収支予算(案)についても大屋、吉永両理事から詳細な説明がなされた。(いずれも別掲)

事業計画で主たるものは集会では六月八日の第五十一回ウエストン祭九月二十、二十一日の越後支部主管全国支部懇談会、十月の全国山岳博物館連絡会と三重での自然保護全国集会、十二月六日の年次晩餐会や一月の若年層会員育成対策研究会、海外登山では東海支部のK2学術登山一九九七など。

これに対する予算は基本姿勢として、①収支均衡型 ②消費税五パーセント重視 ③平成九年度からの税法改正に対応、の三点に置き、前年度比三・一パーセント増の八〇一四万

円とされた。これに対する支出も、運営管理費のうち、会員名簿発行に伴う印刷・製本費が大幅に増えたほかは、前年度に比べ四〇〇〇円増の七九八万三〇〇〇円に止まった。なお、気象条件が厳しく今後予想される山研の修繕費については、平成九年度より修繕積立金を、山研運営委員会と検討していく旨報告があった。

平成九年度の役員改選の件については、定款十三(十五)条、細則七、八条により、理事二十名のうち十四名が新任となり、会長に斎藤惇生前副会長、副会長に小倉茂輝前常任評議員、大森薫雄元評議員、竹内哲夫前評議員が選出された。また評議員二十名も、十二名が新任となった。

平成九年度除籍者の件については、とくに大屋理事から会員各位の働きかけで、対象者が少なくなるようにとの協力要請があった。

このあと議事録署名人に高原三平、中村昭両会員が指名され、続いて当日出席の平成九年度理事、監事、評議員が紹介された。

#### ■村木会長の挨拶は

##### 山岳会の課題と将来について

議案審議を終え、二年の任期で退任する村木会長は、退任役員に対する感謝の言葉を述べたあと、次のような挨拶を行った。

「九十周年記念行事、マナスル登頂四十周年とお祭り騒ぎに終始し、会の将来に関する問題については無為に終わった。しかし多勢の会員の話を聞き、会務の流れを見て、それなりに見えてくるものもあり、やり残したと思うこともある。

##### 一、会の運営に関すること。

懸案の組織改正については何も手をつけていない。中高年の登山団体になった会としては、会員に何らかの止まり木を提供する義務があり、それに伴う会務、組織の複雑さも時にはやむを得ないと考えたからだ。最近、新入会員の同期会が盛んで、会員サービスの弱点を補って大変素晴らしいことだが、会の本質は歴史を縦に継げるクラブであったはずで、そろそろもう一工夫あってもよいのではないか。昔、東京支部が解散してその流れが現在の三水会になっているが、今のままでよいのか。お互いの拠り所としての機能を積極的に考え直し、併せて、ルームの有効利用、とくに日中の利用を工夫していただきたい。

##### 二、会の業務、将来像に関すること。

会の目標はアルピニズムに基づく登山活動であったが、平均年齢五十七〜八歳の組織では大したことはできない。望みを託すべき若い人たちの育成はしばらくおき、中高年自身

はどうするのか、会のステイタスを保つにふさわしい活動として何があるのか、その宿題のようなものを列挙する。

①秩父宮家ご遺贈金に関する事業として、登山、山岳に関する研究を推進するための表彰制度の検討。

②山岳博物館の建設。単に歴史的な事物の展示ではなく、山岳に関する科学的、人文科学的な研究組織を備えたものを作りたいという運動がすでに会員の一部にある。

③ネパール山岳博物館に対する応援。現在ポカラに建設中の同館にできるだけの経済的支援を行う。

##### 三、世界の登山界との関わり。

個別的なものではなく組織的なものについて、世界山岳連盟、アジア山岳連盟などに対しては日山協が責任と義務をもつものと考え。しかし本会も歴史的な背景と人材の面で日山協を支える必要があることを承知しておいていただきたい。

##### 四、自然保護について。

人類の将来のあやうい現実を考えると、あまり思い上がったことは言えない。最近の「白神山地」問題については、入山規制に対する反対、賛成の議論があり、地元尊重の立場から担当理事は青森支部の反対論に同調すべく考えていたが、自然保護委員会は賛成の意見を表明。いずれの

意見も立場を変えればそれなりに正しいかもしれないが、お互いに対話し、議論を尽くさない弊害が出たようだ。理事会も掘り下げて議論をしなかった点は同罪であり、青森支部並びに関係の方々に深くお詫びする。五、青年層の育成。

会の本来の目的の実行、将来の存立に関する問題である。学生部、青年部、指導部、高所登山などの委員会があり、それぞれ苦心運営に当たっているが、なかなか曙光を見いだせない。大山山岳部の人たちに将来の望みを託してよいのか、会の器で次代を背負う人々を育てられるのか、いずれも難問であり、未解決である。これらの諸問題をそのまま、次期斎藤会長はじめ役員の方々にお渡しすることは誠に申し訳ないことであるが、これも会の宿命と思いきらめていただいで、一歩でも前進することを期待して、皆さまのご活躍を祈る次第である」

■勤続二十五年の  
事務局杉山さんに感謝状

また、斎藤新会長はその挨拶の中で、中高年の方のお手伝いをしていく考えを強調し、昔と環境は異なるがパイオニア精神を忘れてはならない。各自が山を考えつつ、若年層が昨年のK2のように立派な計画をも

つのであれば全面的に協力する。自然保護、国際化にも十分取り組んで、山田二郎元会長の『命を、仲間を、自然を大切に』が基本になると思う」と述べた。

新旧会長挨拶のあと、勤続二十五年を迎えた事務局経理担当の杉山都子さんに對し、村木会長から感謝状と金一封、記念品が贈呈された。

総会終了のあとは同所で懇親会。織内信彦名誉会員が「日本山岳会の役員は、株式会社取締役と違って、メンバーズサーバントである本来の任務を忘れず、会員のためにやることになっていく」と激的乾杯音頭をとったあと、和やかな懇親の場に移した。懇親会参加者は百四十七名。(写真・伊藤 敏 文・高田真哉)

総会・付記 (質疑応答)

平成八年度事業報告および同収支決算審議の際、次の質疑応答があったことを付記しておく。

織内信彦名誉会員 収入の六割は入会金と会費からなる。新入・復活会員数と、物故・退会・除籍者のバランスは百八名増だが、従来の傾向はどうか。会員の異動などで、退会者除籍者があることは、会に魅力がないからといえないか。

大屋理事 一昨年は百四十八名増。手元に資料がないが、その前も百四

十、百五十名増だったと思う。村木会長 増えているように見えて、バランスは大したことはない。ただ魅力ある会か私も疑問を持っている。魅力ある会にするため今後どうするか、大きな問題。新入会員は年齢層も高い。会の魅力を持たせることは、今後の会運営の課題だ。

柴田篤志会員 次期繰越収支差額の未収会費残高は、前期末より当期末が増えている。これはどのように回収するのか。

吉永理事 前期分の処理は公益法人の会計原則で、損金としてゼロにする。これは翌年除籍になるから、その分ゼロにして、また新たに今年度未収金として会計処理をする。金額的には値上げ分が増えた。回収方法は、晩餐会のあと本人宛督促状を出しているが、平成九年度からは当該各支部に未納者リストを渡し、支部からの督促をお願いすることも、本日支部長会議で決まった。平成九年度はこの二つの方法で九七、九八パーセントまで納入率を高めた。柴田会員 各委員会への補助金は。吉永理事 支出の部のうち事業費それぞれが各委員会の活動費となっている。補助は行っていない。

石田稔郎会員 自然保護委員会の組織運営について会報六二二号に「再び白神山地について」と題して投稿

したが、それについての見解がないので、それを示してほしい。大屋理事 担当理事は本日欠席である。

伊藤敏会報担当理事 会報六二五号(六月号)に自然保護委員会の回答を掲載する。

■平成九年度理事・監事・評議員

会長 斎藤 惇生 新

新副会長 小倉 茂暉 新

同 大森 薫雄 新

同 竹内 哲夫 新

理事(担当) (山岳編集) 田邊 壽 再

(総務) 大屋 悌二 再

(財務) 吉永 英明 再

(青年・遭難対策) 宇田川芳伸 再

(指導・海外連絡) 熊崎 和宏 再

(自然保護) 大蔵 喜福 再

(学生部) 宮崎 絃一 新

(会報編集) 村井 葵 新

(高所登山) 伊丹 紹泰 新

(図書・図書管理) 飯田 進 新

(山研) 坂本 正智 新

(総務) 絹川 祥夫 新

(集会) 勝山 康雄 新

(医療) 増山 茂 新

(科学研究) 森 武昭 新

(フィルムビデオ・資料) 鯉坂 青青 新

監事 石橋 正美 再

監事 神崎 忠男 新  
 常任評議員 穴田 雪江 再  
 長尾 悌夫 再  
 中村 太郎 再  
 平山 善吉 新  
 中川 武 新  
 平野 眞市 新  
 大森弘一郎 再  
 山口 俊輔 再  
 大倉 昌身 再  
 吉田 宏 再

評議員

長坂 博 再  
 若林啓之助 新  
 村木潤次郎 新  
 中村 純二 新  
 芳賀 孝郎 新  
 山本健一郎 新  
 宮下 秀樹 新  
 岩間 弘雄 新  
 魚本 定良 新  
 中谷 充 新

会長就任にあたって  
 山登りはそれぞれのパイオニアワーク実践を



挨拶する斎藤新会長

斎藤 惇生

このたび皆さんのお許しをいただき、会長をお引き受けることになりました。小倉茂暉、大森薫雄、竹内哲夫の三人の副会長及び理事の皆さんとともに、会の運営、発展に力を尽くしたいと思えます。よろしくお願いたします。

私は一九七九年、本会が初めて中国に入ったチョモランマの偵察隊、

八〇年の本隊、八八年のチョモランマ／サガルマータ三國合同交差縦走隊、九二年の第二次ナムチャバルワ隊に参加しました。また八六年に創設された京都支部の支部長を本年三月まで務めました。七九年以来、私は日本山岳会とともに歩んできたといつて過言ではありません。これくらいささかでもご恩返しができると念じております。

ただ一昨年、副会長就任後間もなく胃の手術を受け、また昨年は日中友好梅里雪山合同登山隊に参加して現地に赴いたり、十分職務を果たせず、村木会長以下理事の皆さんにご迷惑をおかけしたことを深くお詫

びいたします。

一九〇五年、七名の先覚者によって創設された本会は、常に日本登山界の国内国外活動の先駆的、指導的役割を果たしてきました。しかし昨今の登山界の情勢は、ご存じのように驚くほどの変化をきたしています。中高年登山者の激増に対し、若年層の登山への興味関心の低下、また未踏峰がほとんど登り尽くされ、登攀の形態が変化して、より尖鋭的になる反面、ヒマラヤ高峰への隊員募集登山が日常化しています。

本会も中高年の入会者が多くなり、会員の平均年齢は五十六〜五十七歳と聞いています。会はこの急速な変化に対し、まだ十分な対応をしているとは言えません。私どもは十代の終わりか二十代から夢中になって山に登ってまいりました。最近の中高年の登山者は、四十代、五十代になってから登山に関心を持ち、夢中になって登っておられるのだと思います。私たちより二十年、三十年遅れて山の魅力を知られたのですが、それは素晴らしいことで、理解し、共感できることです。私たちはそれに対して、当然の義務ではないかと考えております。

昨年、青年部が主催して、現役の学生が多数参加したK2登山隊が

無事故で十二人も登頂するという目覚ましい成功を収めました。これからは、若手の意欲的な計画に対しては、いっそう積極的に応援、協力することが、若い会員の増加に結びつき、ひいては会の活力を保つ大事なことだと思えます。

古い「山岳」や会報の「山」を繕きますと、先人たちのあふれんばかりのパイオニア精神に圧倒されます。会はこの輝かしい伝統をもう一度思い起こして、中高年の新入会員も若手の会員も、各人の山行において、自分のパイオニアワークを計画実践されるように期待します。確かに七千メートル以上の未踏の山がほぼ登り尽くされた現在、登山において社会的、歴史的に評価されるパイオニアワークの幅は著しく狭くなっています。しかし、各個人のパイオニアワークは考えようによっては無限だと思えます。

その他に、会が直面している問題に、山の自然保護と国際関係の強化があります。

山の自然保護をつきつめると、人が山に入ったり登ったりしないことだ、との極論も聞かれます。私も登山家は、山の自然を含んだすべてを愛し登ります。山の自然を汚さず、被害を与えず、調和を保つことを常に真剣に考えなければなりません。

個々の事例を登山団体としてよく検討して対処すべきだと思えます。

外国の山岳団体、連盟組織との交流も、日本山岳会が日本を代表する会であれば、避けて通ることは困難になっていきます。財政的な問題もありますが、前向きに考えてゆくべき時期にきています。

本会は、本年度創立九十三周年となり、記念すべき大きな節目の百周年はもうすぐです。百年史編纂の委員会はずでに発足しています。記念の実行テーマの具体案はもう検討すべき段階に入りました。皆さんの力強いご協力をお願いいたします。

会員の在籍状況を見ますと、首都圏と地方支部とがちょうど半数ずつになっていきます。地方支部の興隆は会の発展に大きな影響があります。支部との交流を一層深め、発展に協力しなければなりません。

直面する問題、そして努力目標を述べてまいりましたが、会員の皆さんのご批判、ご指導をいただきながら前進したいと考えております。

かつて山田二郎元会長が就任の時「生命を大切に、仲間を大切に、自然を大切に」と三つの基本原則を説かれ、深く共感いたしました。私もこの三つの原則を同じように守っていきたくと念願してご挨拶いたします。

### 追悼 クリシュナ・B・バルマ氏 突然の訃報



神崎忠男

ネパール登山協会は、世界最高峰エベレストにヒラリー卿が初登頂した日を記念して「エベレスト・デー」を制定した。五月二十九日カトマンズで、世界各国の登山家が登山界の現状を話し合い、同時にポカラに建設中のネパール国際山岳博物館の計画披露を兼ねた集会が開かれた。私も日本山岳会の代表として参加した。行事が終わり、夕方、ネパール・日本研究センター(NNRC)代表のクリシュナ・バドゥール・バルマ氏に電話をした。日本山岳会前評議員松田雄一氏から預かったNNRC入会申込書を届けるためである。クリシュナ氏は日本人会員の入会を喜ばれたが、松田氏からの連絡というのがことのほか嬉しいようで、電話先の声は大きく明るく、元氣そのもの。翌三十日の朝八時四十五分にお目にかかることになった。

クリシュナ氏は日本山岳会の名誉会員であり、マナスル登頂の功労者でもあるので、直接面識のない私は多少緊張して八時三十分にご自宅を訪れた。家の外から日本語で「ごめんどください」と大声で挨拶したが返事が無い。やけに静かな家の中から一人の女性が表れ、日本語で「私はクリシュナの娘アムリタです。突然ですが父は昨夜亡くなりました」と。一瞬、間違った家に来てしまったのかと戸惑っていると「電話の方ですね、父は楽しみにしておりましたのに。電話の二時間後でした」という。ご遺体は、ヒンズー教の習慣で、今朝早くご家族、ご親戚の方々がパシュパティナートに運ばれたとか。悲しみにくれるご家族を煩わせてもと考え、明日の夕方、NNRCの事務局長にお会いすることにして、ひとまず辞去了。

渡した書類を指して「これを見たら父がどんなに喜んだか、誠に残念でなりません。父は日本がネパールに大きな影響を与えてくれたのに、ネパールは日本に何もしてあげることができない、いつも申しております。日本のために働くことが父の生きがいだったのです」

また娘さんのご主人も、クリシュナ氏が常に日・ネ友好親善に努力されたこと、ネパール人として初めてNHKに出演されたこと、マナスル登山の記念切手発行に苦労されたことなどを語られた。そして、ネパール・日本研究センター建設計画の設計図を見せられ、マナスル登山の発地点ラニヴァワンに建設予定地を確保し、そこにセンターを造ることがクリシュナ氏の夢であったということをお話された。

故人のご冥福をお祈りいたします。

#### \* クリシュナ名誉会員の経歴

一九二五年五月生まれ。行年七十二歳。トゥリチャンドラ・カレッジ卒業後、インド及び日本に留学。ネパール政府の家中中小企業局長、観光局長、バルマ県知事などを歴任。またスポーツ関係ではアジア大会やオリンピックの選手団長、ネパール体協会長を務める。ネパール・日本研究センター創立理事であった。

11月30日 全国大学監督者会議(高所登山、青年、指導) 神戸  
 12月7日 支部長会議(総務) 新高輪プリンスホテル  
 12月7日 年次晩餐会(総務) 新高輪プリンスホテル  
 12月7日 マナスル登頂40周年記念展(資料、総務)  
 高輪プリンスホテル

12月8日 親睦山行(集会) 御岳山  
 1月10~12日 八方尾根スキー懇親山行(集会) 八方尾根  
 1月24日 青年部懇談会(青年) 私学会館  
 2月1~3日 アイスクライミング講習会(青年、指導、学生、遭難対策) ハヶ岳  
 2月15日 高所登山研究会(高所登山) 本会  
 2月21日 山岳史懇談会(図書) 本会  
 2月22~23日 全国支部事務局担当者会議(総務)  
 グリーンホテル・本会

2月22~23日 冬山登山技術研修会(指導) 宝剣岳  
 3月5日 16mmフィルム映写会(フィルムビデオ) 本会  
 3月15日 新入会員オリエンテーション(総務) 本会  
 3月21~23日 初中級山岳スキー研修会(指導) 御岳

## (B) 研究会・講演会

7月3日 講演会「南極観測と地球環境」(科学研究) 本会  
 10月3日 講演会「森林と環境」(科学研究) 本会  
 2月6日 講演会「凍傷の治療」(医療) 本会  
 3月17日 講演会「アンデスの遺跡を掘る」(科学研究) 本会

## (C) シンポジウム

6月9~10日 第16回日本登山医学シンポジウム(医療)  
 乗鞍青年の家

## 2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

\* 上高地山岳研究所の運用、資料室開設 5~10月  
 \* 受入れ資料保管  
 \* 各博物館、美術館との提携強化  
 \* 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存

## 3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

## 4. 自然保護活動の推進

\* 自然保護指導者の養成  
 \* 自然保護委員会による年間山の自然学講座

## 5. 機関紙等の発行

\* 「山岳」第91年(1996)号の発行  
 \* 会報「山」第611~622号の発行

## 6. 国内および外国山岳団体との情報交換

\* 国内関係団体(日山協、都岳連、日本ネパール協会、日本ヒマラヤ協会、HAT-J、その他)との密接な連絡  
 \* 海外登山団体との機関紙の交換および情報誌の購入

## 7. 海外登山

\* 6月5日~30日 マッキンリー気象観測隊の派遣、気象観測機器の設置(科学研究)  
 \* 5月28日~8月 K2登山隊派遣、新ルート開拓(青年)

## 8. その他目的を達成するために必要な事業

\* 新刊図書目録資料調達  
 \* 山岳図書の整備  
 \* その他

## 社日本山岳会平成8年度事業報告書

8. 4. 1~9. 3. 31

## 1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会および展覧会の開催

## (A) 集会

4月14日 サクラハイク(集会) 陣馬山  
 4月13~15日 山岳スキー研修会(指導) 谷川  
 4月18日 屋久島調査(自然保護) 屋久島  
 5月14日 K2登山隊壮行会(青年) 明治大学  
 5月3~6日 雪上総合技術研修会(指導) 鋸岳  
 5月18日 支部長会議(総務) グリーンホテル  
 5月18日 通常総会(総務) グリーンホテル  
 5月25~26日 若葉会20周年記念山行(集会) 金城山・浅草岳  
 6月2日 第50回ウエストン祭(信濃) 上高地  
 6月8日 古道を歩く(図書) 妻坂峠  
 6月8~9日 探索山行(科学研究) 菅平  
 6月15~16日 小川山集会(学生) 小川山  
 6月25~26日 鳥海山イヌワシ調査(自然保護) 酒田市  
 6月27日 若葉会山行写真交換会(集会) 本会  
 6月29~30日 谷川岳合宿(青年) 谷川  
 6月30日 初級岩登り技術研修会(指導、学生) 谷川  
 7月9日 梶田アイゼン、ビッケル講習会(集会) 本会  
 7月10日 台湾訪日団歓迎会(海外) 日比谷  
 7月17~23日 ネパール小楠花植林(自然保護) ネパール  
 7月10~12日 全国山岳遭難対策協議会(遭難対策) 岐阜  
 7月~8月 上高地インタープリテーション(自然保護) 上高地  
 7月16日 写真撮影会(フィルムビデオ) 浅間嶺  
 7月26~8月20日 カナダ山岳会との交流(海外) カナダ  
 8月14日 名誉会員を囲む会(総務) 本会  
 8月16~17日 鳥海山イヌワシ調査(自然保護) 八幡町  
 9月7日 ビールパーティー(集会) 本会  
 9月7~8日 自然保護全国集会(自然保護) 小谷温泉  
 9月17日 鳥海山イヌワシ調査(自然保護) 盛岡市  
 9月19日 海外登山報告①ポベータ峰②エベレスト峰(青年) 恵比寿  
 9月27日 K2報告会(総務、青年) 明治大学  
 10月4~7日 マナスル登頂40周年ネパール事業(総務、資料) 本会  
 10月5~6日 全国支部懇談会(総務、東海) 名古屋  
 10月11日 トリノ山岳博物館長招待の夕べ(図書) 本会  
 10月19~20日 ロッククライミング講習会(青年、指導、遭難対策 学生) 文部省登山研修所  
 10月15~16日 写真撮影会(フィルムビデオ) 北ハヶ岳  
 10月16日 自然観察会(自然保護) 函南町  
 10月19~20日 キノコ山行(集会) 摩耶山  
 10月24日 K2報告会(青年) 恵比寿  
 10月26日 秋季オリエンテーション(総務) 本会  
 10月26~29日 白神山調査(自然保護) 青森市  
 11月5日 UIAA会長来日歓迎会(海外) 原宿  
 11月10日 マラソン大会(学生) 皇居外苑  
 11月21日 山岳図書を語る(図書) 本会  
 11月29日 中国登山協会代表団歓迎会(高所登山) 新宿  
 11月29日 中国登山協会、西藏登山協会首脳部懇談会(海外) 新宿

印刷・製本費	1,700,000	1,795,464	△ 95,464
旅費・交通費	1,500,000	1,116,420	383,580
通信・運搬費	2,000,000	1,276,963	723,037
保険料	200,000	325,590	△ 125,590
修繕費	300,000	593,707	△ 293,707
租税公課	650,000	523,780	126,220
光熱水道費	750,000	664,725	85,275
電話料	450,000	467,424	△ 17,424
会議費	300,000	211,405	88,595
什器備品費	600,000	854,797	△ 254,797
振替手数料	605,000	562,310	42,690
福利厚生費	220,000	210,549	9,451
事務所管理費	750,000	998,986	△ 248,986
その他管理費	2,700,000	2,683,951	16,049
負担金	135,000	80,000	55,000
賃借料	3,900,000	3,660,000	240,000
雑費	1,000,000	501,132	△ 498,868
管理費計	31,310,000	29,572,257	1,737,743
3.固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出計	0	0	0
4.特定預金支出			
秩父宮家ご遺贈金支出	0	10,000,000	△10,000,000
図書出版研究基金支出	0	30,000	△ 30,000
長期計画積立金支出	3,000,000	7,750,000	△4,750,000
海外登山基金支出	0	4,390,000	△4,390,000
終身会費積立金支出	0	940,000	△ 940,000
退職給与引当預金支出	1,000,000	1,000,000	0
特定預金支出計	4,000,000	24,110,000	△20,110,000
5.予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	79,887,000	99,800,663	△19,913,663
当期収支差額(A)-(C)	△2,167,000	△ 43,309	△2,123,691
次期繰越収支差額(B)-(C)	9,264,025	11,387,716	△2,123,691

### 収支計算書

平成8年4月1日から平成9年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I. 収入の部				
1.基本財産運用収入				
基本財産利息収入	200,000	87,565	112,435	
2.会費・入会金収入				
入会金収入	5,000,000	4,900,000	100,000	
復活会費収入	0	160,000	△ 160,000	
通常会費収入	63,600,000	63,667,000	△ 67,000	
終身会費収入	0	940,000	△ 940,000	
会費・入会金収入計	68,600,000	69,667,000	△ 1,067,000	
3.事業収入				
広告料収入	1,500,000	2,347,711	△ 847,711	
印税収入	20,000	28,384	△ 8,384	
刊行物頒布収入	200,000	362,400	△ 162,400	
その他事業収入	3,000,000	4,305,465	△ 1,305,465	
山研使用料収入	3,000,000	3,448,940	△ 448,940	
事業収入計	7,720,000	10,492,900	△ 2,772,900	
4.補助金等収入				
補助金収入	0	2,000,000	△ 2,000,000	(注)1
5.寄付金収入				
寄付金収入	0	13,500,000	△13,500,000	(注)2
募金収入	0	466,197	△ 466,197	(注)3
寄付金収入計	0	13,966,197	△13,966,197	
6.雑収入				
受取利息	700,000	765,390	△ 65,390	
雑収入	500,000	2,778,302	△ 2,278,302	
雑収入計	1,200,000	3,543,692	△ 2,343,692	
7.特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	77,720,000	99,757,354	△22,037,354	
前期繰越収支差額	11,431,025	11,431,025	0	
収入合計(B)	89,151,025	111,188,379	△22,037,354	

- (注) 1. 「環境事業団環境基金」助成金 ¥2,000,000. -  
 2. 秩父宮家ご遺贈金 ¥10,000,000. -  
 青年部K2登山隊剰余金寄付 ¥3,500,000. -  
 3. 90周年記念事業募金 ¥466,197. -

### 正味財産増減計算書

平成8年3月31日～9年3月31日

科 目	金 額	
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
秩父宮家ご遺贈金	10,000,000	
図書出版研究基金	30,000	
長期計画積立金	7,750,000	
海外登山基金	4,390,000	
終身会費積立金	940,000	
退職給与引当預金	1,000,000	
棚卸資産	169,451	24,279,451
増加額合計		24,279,451
II. 減少の部		
1. 資産減少額		
当期収支差額	43,309	
什器・備品	0	43,309
2. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	1,000,000	1,000,000
減少額合計		1,043,309
当期正味財産増加額		23,236,142
前期繰越正味財産額		351,933,946
期末正味財産合計額		375,170,088

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,402,000	11,214,936	187,064	
図書管理費	800,000	703,120	96,880	
調査研究費	2,725,000	4,735,964	△2,010,964	
指導費	1,150,000	1,142,084	7,916	
支部関係費	10,950,000	10,110,907	839,093	
海外諸関係費	250,000	317,610	△ 67,610	
山岳研究所運営費	3,500,000	3,687,050	△ 187,050	
海外登山補助費	1,000,000	1,000,000	0	
その他事業費	4,800,000	7,107,542	△2,307,542	
印刷・製本費	1,500,000	678,473	821,527	
通信運搬費	5,000,000	5,420,720	△ 420,720	
事業費計	43,077,000	46,118,406	△3,041,406	
2. 運営管理費				
給料・手当	13,300,000	12,825,200	474,800	
文具・消耗品費	250,000	219,854	30,146	

## 2. 基本財産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井信託銀行)	2,380,000	0	0	2,380,000
" (日本信託銀行)	420,000	0	0	420,000
" (中央信託銀行)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計(基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

## 3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現金預金	9,093,245	8,292,046	
未収会費	3,483,000	4,375,000	
合 計	12,576,245	12,667,046	
前受会費	170,000	408,000	
預り金	975,220	871,330	
合 計	1,145,220	1,279,330	
次期繰越収支差額	11,431,025	11,387,716	

## 4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	144,423,000	0	144,423,000
什 器 備 品	5,778,232	0	5,778,232
合 計	150,201,232	0	150,201,232

## 財 産 目 録

平成9年3月31日

科 目	金 額
[1] 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金 現金手許有高	409,665
振替貯金	
東京地方貯金局	960,147
普通預金	
あさひ銀行市ヶ谷支店	6,254,016
東京三菱銀行市ヶ谷支店	569,260
中央信託銀行本店	58,930
三井信託銀行新宿 西口支店	24,906
日本信託銀行本店	15,122
未収会費 365名分	4,375,000
棚卸資産 注1)	3,073,970
流動資産合計	15,741,016
2. 固定資産	
(1)基本財産	
貸付信託	
三井信託銀行本店	2,380,000
日本信託銀行本店	420,000
中央信託銀行本店	5,200,000
基本財産合計	8,000,000
(2)その他固定資産 注2)	
土 地 57.91484㎡	46,297,170
建 物 432.63㎡	144,423,000
什器・備品	5,778,232
敷 金	300,000

## 貸 借 対 照 表

平成9年3月31日現在

科 目	金 額
[1] 資産の部	
1. 流動資産	
現 金	409,665
振 替 貯 金	960,147
普 通 預 金	6,922,234
未 収 会 費	4,375,000
棚 卸 資 産	3,073,970
流動資産合計	15,741,016
2. 固定資産	
基本財産	
貸付信託	8,000,000
基本財産合計	8,000,000
その他固定資産	
土 地	46,297,170
建 物	144,423,000
什 器 備 品	5,778,232
敷 金	300,000
秩父宮家ご遺贈金	10,000,000
図書出版研究基金	4,940,000
長期計画積立金	35,300,000
海外登山基金	93,500,000
終身会費積立金	12,170,000
退職給与引当預金	6,665,000
その他固定資産合計	359,373,402
固定資産合計	367,373,402
資産合計	383,114,418
[2] 負債の部	
1. 流動負債	
前受会費	408,000
預り金	871,330
流動負債合計	1,279,330
2. 固定負債	
退職給与引当金	6,665,000
固定負債合計	6,665,000
負債合計	7,944,330
[3] 正味財産の部	
正味財産	375,170,088
(うち基本金)	8,000,000
(当期正味財産増加額)	23,236,142
負債及び正味財産合計	383,114,418

## 計算書類に対する注記

## 1. 重要な会計方針

- 有価証券の評価基準及び評価方法について  
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- 固定資産の減価償却について  
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- 引当金の計上基準について  
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の137%に相当する額を計上している。
- 資金の範囲について  
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費および預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

ライティングビューロー (木製)	54. 6. 23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット (スチール製品)	56. 8. 8	254,000	"
図書カード容器 (木製3段)	56. 9. 12	200,000	図書室
書棚 (木製2段)	56. 12. 22	500,000	"
16mm 映写機16-CL(MO)	61. 5. 13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付 (2台)	62. 9. 24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	2. 7. 19	587,932	事務所
世界対応 VTR 001 NWV	4. 5. 11	250,000	"
小型気象ファクシミリ JAX-9	4. 10. 19	320,000	"
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	5. 3. 20	250,000	山 研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	5. 3. 20	280,000	"
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S	5. 3. 20	250,000	"
合 計		5,778,232	

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈益)

1. 絵画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載、保管場所
白 馬 岳	油 - A 50	中村清太郎	大町山岳博物館
富 士 山 麓	油 - A 25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形 6	中村清太郎	本 会
群 猿	墨 絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
鳥(カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング	本	本 会
モンブラン	エッチング	松本アルプス山岳館	本 会
カンチェンジュンガ	エッチング	シネライギ	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	本 会
酒沢より北穂高	水彩 - 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	本 会
北穂高滝谷	油 - 25	足立源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	本 会
北穂高主峰	油 - 25	足立源一郎	本 会
槍ヶ岳	油 - P 8	足立源一郎	本 会
タンボチエの僧院	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油 - 12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画 - 8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩 - 10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画 - 8	鈴木 正俊	本 会
ナムチャルワ峠暮色	油 - 10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 晚霞	本 会
上高地秋景	油 - F 20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャプチャレ	油 - 20	武井 清	本 会
朝霧	水彩 - 8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油 - 6	茨木猪之吉	本 会
麗春	油 - P 50	倉員 辰雄	本 会
ヒマラヤダーズリンにて	油 - F 4	上野 春香	伯耆国山岳美術館

\*その他絵画、写真省略

秩父宮家ご遺贈金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	10,000,000		
図書出版研究基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	4,940,000		
長期計画積立金(定期預金・東京三菱市ヶ谷)	35,300,000		
海外登山基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	93,500,000		
終身会費積立金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	12,170,000		
退職給与引当預金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	6,665,000		
その他固定資産合計	359,373,402		
固定資産合計		367,373,402	
資産合計			383,114,418
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費 平成9年度 会費40名分	408,000		
預り金 職員に対する 源泉所得税その他	871,330		
流動負債合計		1,279,330	
2. 固定負債			
退職給与引当金	6,665,000		
固定負債合計		6,665,000	
負債合計			7,944,330
正味財産			375,170,088

注1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳総索引、山岳覆刻版等	909,040
服飾品・その他	クラブタイ、タイ止等	2,164,930
合 計		3,073,970

注2) その他固定資産内訳

1 建物及び土地

A 事務所及び図書室		
場所	東京都千代田区四番町5番4	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建	
	(事務所)区分所有建物1階部分 103.32㎡	
	宅地持分 1,124.56㎡ × 339/10,000	
	=38,122,584㎡	
	(図書室)区分所有建物1階部分 55.22㎡	
	宅地持分 1,124.56㎡ × 176/10,000	
	=19,792,256㎡	
計	158.54㎡ 宅地持分 57.91484㎡	72,720,170
B 上高地山岳研究所		
場所	長野県南安曇郡安曇村4469番地1	
構造	鉄筋コンクリート造(一部木造)1棟	
	274.09㎡	118,000,000
合 計		190,720,170

2 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	所 在
書庫内移動書架一式コンパクト	53. 2. 10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル(木製2台)	53. 9. 28	250,000	図書室

- \*上高地インタープリテーション(自然保護) 7~8月
- \*カナダ山岳会との合同登山(海外連絡) 7月27日~8月16日
- \*K2海外登山報告会(青年、学生) 9月
- \*第5回山を語る(図書) 9月
- \*自然観察会(自然保護) 9月
- \*ビールパーティー(集会) 9月6日
- \*第1回高所登山研究委員会(高所) 9月中旬
- \*全国支部懇談会(総務) 松代 9月20~21日
- \*キノコ山行(集会) 10月25~26日
- \*撮影会(フィルムビデオ) 10月
- \*全国山岳博物館連絡会(資料) 10月
- \*自然保護全国集会(自然保護) 三重 10月
- \*岩登り研修会(指導、青年、遭難対策) 文登研 10月上旬
- \*新入会員オリエンテーション(総務) 10月25日
- \*全国大学山岳部監督会議(青年) 10月
- \*ムスターグ・アタ峰海外登山報告会(青年) 10月
- \*マナスル峰海外登山報告会(青年) 11月
- \*マラソン大会(学生) 皇居外苑 11月
- \*第29回山岳図書を語る夕(図書) 11月
- \*現役委員、委員OB懇談会(青年) 12月
- \*支部長会議(総務) 新高輪プリンスホテル 12月6日
- \*年次晩餐会(総務) 新高輪プリンスホテル 12月6日
- \*年次晩餐会後の山行(集会) 12月7日
- \*スキー懇親会(集会) 1月15~18日
- \*第26回山岳史懇談会(図書) 2月
- \*支部事務局担当者会議(総務) グリーンホテル水道橋 2月21~22日
- \*第2回高所登山研究委員会(高所) 2月中旬
- \*アイスクライミング研修会(学生、指導、青年、遭難対策) 八ヶ岳 2月上旬
- \*雪上総合技術研修会(指導) 白根山 2月下旬
- \*新入会員オリエンテーション(総務) 3月14日
- \*山岳スキー研修会(指導) 大日岳 3月中旬
- \*映写会(フィルムビデオ) 3月

## B) 研究会

- \*若年層会員育成対策研究会(青年) 1月

## C) 講演会、シンポジウム

- \*講演会(集会) 7月
- \*自然保護シンポジウム 7月
- \*第17回日本登山医学シンポジウム(医療) 6月6~7日
- \*講演会(登山の啓発教育)(医療) 11月
- \*文部省登山研修所友の会シンポジウム参加(遭難対策) 11月下旬
- \*シンポジウム「山岳気象」(科学) 11月
- \*日本の分水嶺(科学) 2月

## 2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

- \*上高地山岳研究所の運用、資料室開設 5~10月
- \*受入れ資料保管
- \*各博物館美術館との提携強化
- \*海外遠征の記録、会合、行事等の記録的フィルムのビデオテープ化による保存

## 3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

## 4. 自然保護活動の推進

- \*自然保護活動のミニコミ紙発行
- \*山の自然保護指導者の養成

## 5. 機関紙等の発行

- \*「山岳」第92年(1997)号の発行

## 2. 図書

種類	摘要	冊数
和書	平成8年度 受入冊数	266冊
洋書	平成8年度 受入冊数	58冊
		9250冊
		3271冊

## 3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点 「マナスルに立つ」他
ビデオ	167本

## 監査報告

社団法人日本山岳会平成8年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。  
平成9年4月15日

社団法人 日本山岳会 監事 川崎 巖  
監事 石橋 正美

## 日本山岳会平成9年度事業計画(案)

(9.4.1~10.3.31)

## 1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講演会および展覧会の開催

## A) 集会

- \*新入会員歓迎サクラハイク(集会) 浅間嶺 4月13日
- \*鳥海山イヌワシ調査(自然保護) 4月10日
- \*山の自然学講座75~95回(自然保護) 各地年間
- \*山岳スキー研修会(指導) 谷川岳周辺 4月12~14日
- \*雪上総合技術研修会(指導、遭難対策) 劔岳周辺 5月3~5日
- \*エヴェレスト清掃調査(自然保護) 5月
- \*支部長会議(総務) 5月17日
- \*通常総会(総務) 5月17日
- \*第4回古道を歩く(図書) 5月11日
- \*連続講座「夏山気象①」(科学) 本会 5月15日
- \*連続講座「夏山気象②」(科学) 本会 5月22日
- \*連続講座「夏山気象③」(科学) 本会 5月29日
- \*連続講座「夏山気象④」(科学) 本会 6月5日
- \*谷川岳山行(青年) 6月
- \*ネパールの石楠花植林(自然保護) 6月
- \*写真展(フィルムビデオ) 6月
- \*白神山地調査(自然保護) 6月
- \*酸性雨調査(自然保護) 6~7月
- \*第21回若葉山行(集会) 和賀岳 5月24~25日
- \*若葉山行写真交換会(集会) 6月
- \*探索山行(科学) 磐梯山 6月14~15日
- \*小川山集会(学生) 6月
- \*岩登り講習会(指導、青年) 谷川岳周辺 6月上旬
- \*第51回ウエストン祭(信濃支部) 上高地 6月8日
- \*青年部委員OB会(青年) 7月
- \*名誉会員を囲む会(総務) 8月
- \*全国山岳遭難対策協議会参加(遭難対策) 宮城県 7月中旬

指 導 費	1,160,000	1,150,000	10,000
支部関係費	10,900,000	10,950,000	△ 50,000
海外諸関係費	250,000	250,000	0
山岳研究所運営費	3,600,000	3,500,000	100,000
海外登山補助費	1,000,000	1,000,000	0
その他事業費	4,400,000	4,800,000	△ 400,000
印刷・製本費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
通信運搬費	5,500,000	5,000,000	500,000
事業費計	42,918,000	43,077,000	△ 159,000
2. 運営管理費			
給料・手当	13,500,000	13,300,000	200,000
文具・消耗品費	250,000	250,000	0
印刷・製本費	3,600,000	1,700,000	1,900,000
旅費・交通費	1,400,000	1,500,000	△ 100,000
通信・運搬費	1,700,000	2,000,000	△ 300,000
保険料	330,000	200,000	130,000
修繕費	300,000	300,000	0
租税公課	600,000	650,000	△ 50,000
光熱水道費	750,000	750,000	0
電話料	480,000	450,000	30,000
会議費	300,000	300,000	0
什器備品費	500,000	600,000	△ 100,000
振替手数料	600,000	605,000	△ 5,000
福利厚生費	260,000	220,000	40,000
事務所管理費	900,000	750,000	150,000
その他管理費	2,700,000	2,700,000	0
負担金	135,000	135,000	0
賃借料	3,360,000	3,900,000	△ 540,000
雑費	800,000	1,000,000	△ 200,000
管理費計	32,465,000	31,310,000	1,155,000
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出	0	0	0
4. 特定預金支出			
長期計画積立金支出	3,000,000	3,000,000	0
退職給与引当預金支出	0	1,000,000	△1,000,000
特定預金支出	3,000,000	4,000,000	△1,000,000
5. 予備費			
予備費	1,500,000	1,500,000	0
当期支出合計(C)	79,883,000	79,887,000	△ 4,000
当期収支差額(A)-(C)	257,000	△2,167,000	2,424,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	11,644,716	9,264,025	2,380,691

\*会報「山」第623～634号の発行

6. 国内および外国山岳団体との情報交換

\*国内関係団体（日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本勤労者山岳連盟、H A T - J、日本ヒマラヤ協会、その他）との連絡  
\*海外登山団体との機関紙の交換および情報誌の購入

7. 海外登山

\*第8次マッキンリー気象観測機器設置登山（科学）  
\*K2学術登山1997（東海支部）

8. その他目的を達成するために必要な事業

\*山岳図書館の整備  
\*その他目的を達成するために必要な事業を行う

収支予算書(案)

平成9年4月1日から平成10年3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	80,000	200,000	△ 120,000	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	5,000,000	5,000,000	0	
通常会費収入	63,840,000	63,600,000	240,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入会金収入計	68,840,000	68,600,000	240,000	
3. 事業収入				
広告料収入	3,300,000	1,500,000	1,800,000	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物頒布収入	200,000	200,000	0	
その他事業収入	3,500,000	3,000,000	500,000	
山岳研究所使用料収入	3,000,000	3,000,000	0	
事業収入計	10,020,000	7,720,000	2,300,000	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6. 雑収入				
受取利息	700,000	700,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
雑収入計	1,200,000	1,200,000	0	
7. 特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	80,140,000	77,720,000	2,420,000	
前期繰越収支差額	11,387,716	11,431,025	△ 43,309	
収入合計(B)	91,527,716	89,151,025	2,376,691	

東京グリーンホテル 都内に3店舗654室

各種ご宴会、ご会合にご利用下さい



水道橋店 ●千101 東京都千代田区三崎町1-1-16 TEL.03-3295-4161

御茶ノ水店 ●千101 東京都千代田区神田淡路町2-6 TEL.03-3255-4161

後楽園店 ●千112 東京都文京区後楽1-1-3 TEL.03-3816-4161

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
II 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,500,000	11,402,000	98,000	
図書管理費	800,000	800,000	0	
調査研究費	2,808,000	2,725,000	83,000	

## 報告

REPORT  
7月

## 科学委員会・連続講座

## 「夏山気象入門」第一回

## 雷放電と安全対策

— 雷が近づいたら

— 金属を身体から離す? —

科学委員会主催の連続講座「夏山気象入門」第一回は「夏山での雷災防止」をテーマに中央防雷株式会社顧問・北川信一郎氏を講師にお迎えし、本会ルームに十七名が参集して開催された。

以下は北川氏から寄せられたレジュメの要旨である。

一、雷雲はどのような雲か?

空気は絶縁体で電気を流さないが、一センチメートルあたり五〇〇〇ボルトの電圧を加えると、絶縁が破壊され火花放電が起き、瞬間的に電流が流れる。自然が起こす火花放電が雷放電で、雷放電を起こす雲を雷雲という。

日本山岳会の各委員会  
同好会の活動報告です。

に流れ込み、目がくらむ明るい放電路が形成される。

このステップの進行する先方に高い物体があると、最後のステップがこの高い物体に飛びつく。したがって高い鉄塔や一本杉の先端が落雷を引き込むのは、先端から三〇〜五〇メートルの範囲に限られる。

三、落雷に対する安全対策

— 金属を外しても、少しも安全にはならない。レインコートを被りゴム長靴を履いても雷に撃たれる—  
金属製品、金属片は身に付けたまま避難する。緊急のときはその場で姿勢を低くする。頭より高く傘をさすと、いっそう落雷を受けやすくなる。金属に限らず、長い物体を身体より高く突き出さない注意が必要である。ついで落雷の間を見て、安全な場所に移る。

四、安全な場所はどこか?

絶縁物で雷を阻止することはできない。雷電流を大地に流す導体で囲まれた空間が安全である。

五、安全な場所が遠いときはどうするか?

— 雷に対する心得 —  
屋外で、雷雲が近づいたときはどうするか? 周囲に高いものがないか、その場でできるだけ姿勢を低くする。自転車やバイクからはすぐ降りる。落雷直後の一分間は安全であるから、窪地あるいは高さ四メートル以上の物体をさがす。窪地があればその中で姿勢を低くし、四メートル以上の高い物体があれば、てっぺんを四五度以上の角度で見上げ、物体からは二メートル以上離れた位置で姿勢を低くする。樹木のときは、すべての枝・葉先から必ず二メートル以上の距離を取る。四メートルより低い物体には近づかない。

六、安全な場所が遠いときはどうするか?

実際には、自動車(オープンカーは不可)、バス、列車、大型の船舶、コンクリート建築の内部は安全である。通常の木造建築の内部も安全であるが、仮小屋やテントは危険である。屋内では、電灯線、電力線、電話線など外部につながった電線と、これに接続される照明器具、電気器

具から一メートル以上離れた空間が安全となる。

電気器具はスイッチが切ってあっても、他方の線が繋がっているから、コンセントから電源プラグを抜き取らない限り危険である。電灯線、電話線など外部につながる電線があると、これを伝わって雷の異常電圧が屋外から侵入することがある。そこで、テレビセット、無線機からは、二メートル以上離れる必要がある。近隣への落雷で、屋外アンテナから雷の異常電圧が侵入するからである。

雷雨注意報が出ているとき、あるいは雷の気配があるときは、人家から離れた平野、山の頂上、尾根などには出向かないことが大切である。

\*

このほか、

雷の電圧Ⅱ約一億ボルト。

寿命Ⅱ発達期、成熟期、消滅期各々約十五分。

発電能力Ⅱ一五万キロワット(中型水力発電所一基に相当)。

などの雷の大きさ、強さなどについての興味深い数字が示された。

また、人体へ落雷すると、体内に電流が流れ、呼吸と心臓を止めて死亡の原因となる。同時に人体表面での放電「沿面放電」による火傷と電紋を起こすが、軽傷で容易に治癒する。人体が帯びる金属は「沿面放電」を起こしやすく、「沿面放電」を強める結果、危険な体内電流は減少する。

樹木などの下で雨宿りすると、落雷に際して、これらの物体から人体へ二次放電「側撃」が起こり、雷電流の主流が人体に流入するので、これら物体からは二メートル以上離れること。また直撃事故の場合、死亡あるいは重傷は直撃を受けた一人に限られ、周囲の人は軽症あるいは無傷であるなど、いろいろと貴重な話を伺った。

詳細は日本大気電気学会発行のパンフレット「雷から身を守るにはー安全対策Q&Aー」を参照のこと。

\*申込先 千五六五 吹田市山田丘二一一 大阪大学工学部電気工学科

河崎善一郎 気付 日本大気電気学会事務局 七百五十円

\*北川信一郎氏の連絡先 千三三八 浦和市大久保領家四二二一六

TEL・FAX 〇四八八五二二七五九 e-mail:59670282@people.or.jp

(北野忠彦)

## 集委員会

### 第二十一回若葉会山行 雨にたたられ山行中止

■五月二十四日

週末は荒れるとの予報だった。大曲で新幹線「こまち」下車、バスターミナルに続くスーパードで明日の行動食などの仕入れをするうちに同行者が八名になった。タクシーに分乗して「奥羽山荘」に向う。雲は低く、薬師岳の頂上付近は隠れている。運転手の「風が出ているから明日は何とかもつだろう」という言葉に一縷の望みを託す。

受け付けを済ませ、渡された参加者名簿を見ると六十七名の大部隊だ。少し熱いが、ゆったりとした温泉で

くつろぐうちに集会の時間になった。集会に先立ち、明日は朝が早く、天候も思わしくないので、出発前の集合写真を大広間で撮影することに

なった。佐藤さんの司会で始まり、中川前集会担当理事の挨拶、勝山新理事の紹介、そして参加者川俣さんの発声で乾杯、宴会に移った。懇親の輪を広げ、賑やかにゲームを楽しみ、二十一時、中締め。早々と休む人、さらに懇親を深める人、部屋に戻って二次会に移行する人とさまざま。外は雨が降り出し、風も強まる。

■五月二十五日

四時、激しい風雨、出発できる状態ではない。しばらく様子を見ることになった。この時間に出発できないければ加賀岳はあきらめるほかはない。せめて薬師岳までは登ればと願う。そのうちに秋田支部の会員が自家用車やレンタカーで続々到着。八時、まだ雨は降り続き、山行は中止となる。代わりに、田沢湖組、角館・武家屋敷組、一等三角点巡り組などに分かれ、秋田支部さし回しの車に分乗して三々五々流れ解散となった。

秋田県一等三角点三か所巡り

参加者二十名、車十一台で黒森山、天ヶ台山、三ツ森山を回った。横手盆地を走り出すと間もなく雨が止み、雲が切れ始める。もう一時間早く上

がれば……と残念な気もするが、これから回る一等点はこの機会でもなければ金輪際来ることなかならうと、気を取り直す。

黒森山 六郷の町から真昼山地に向かう。峰越し林道を登り切ったところが登山口。タニウツギ、エンレイソウ、ヤシオツツジ、レンゲツツジなどを見ながら三十分歩く。稜線から折れるところ「山頂入り口」という道標がおかしい。山頂には簡易休憩所と簡易展望台が建っていた。展望はよさそうだが、今日は横手盆地が見えるだけである。

天ヶ台山 横手市内で集委員会の一行と別れ、北上線の線路を渡り、狭い道を上がって行く。遊歩道があり、公園になっている。山頂は杉に覆われ、全く見通しがいい、麓の集落がそれぞれ独自にまつた小さな社が三つ建っていた。一時強い雨。

三ツ森山 横手盆地を横断、雄物川を渡るとまだ新しい道に出た。広域農道の標識が立っている。工事の行き止まりで車を降りる。林の中を登り、やや明るく開けた尾根に出た。ワラビ、レンゲツツジ、カタクリなどが美しい。約四十分で山頂に着いたが、展望はなし。また降り出した。ここからは列車、車などで帰る者さらに一泊する者など、それぞれに散会した。

(北野忠彦)

# 東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき二〇〇字詰原稿用紙五〜六枚でお願いします)



イラスト 野田四郎

## 11300メートル級のE

### 南川金一

南アルプスの鳳凰三山、地蔵ヶ岳北方の離山を最後に、二三〇〇メートル級の六十二山を登り終えた。これで二三〇〇メートル以上の三百四十六山をすべて登ったことになる。二三〇〇メートル級にも、登山者にはほとんど顧みられることのない山が少なくない。そんな山の中にも素晴らしい山はいくらでもあるのである。いくつかを記してみる。

最もてこずったのは離山である。地蔵ヶ岳北尾根上の二三〇七メートルピークに山名が注記されるようになったのは八三年の地図からであるためか、あまり知られていない山である。地図上では四つのピークを認めるが、実際は鶏冠状の五つのピーク

クからなり、それぞれに花崗岩の露岩、壁、ギャップを持つ。大武川から取りつき、四回目にして二三〇七メートルピークまで達することができた。花崗岩の風化による砂礫に落葉松の新緑が映える美しい頂上だった。

花崗岩の砂礫と落葉松の美しいピークといえ、甲斐駒北面の坊主山も忘れられない。鞍掛山辺りから見ると坊主山の下部は壁になっており、手に負えそうもない。結局、仙水小屋裏のテント場から駒を越して坊主中尾根を下った。さらに壁のような急斜面を下って坊主山に立つと、そこには白砂青松ともいうべき、思いもしない風景があった。

白砂と這松の取り合わせでは黒部川左岸の木挽山である。このような深い山は残雪期に登るのが本来であるが、タイミングを失い八月にな

ってしまった。平ノ小屋からヌクイ谷に入り、木挽山北面の藪の中を登った。頂上近くなると森林が切れて池塘が点在するようになり、三角点は花崗岩の砂礫の中にあつた。残雪期ではこのような風景に出合うことは不可能であり、望外の収穫だった。御嶽山の一角にある三浦山も、残雪期に登るべきところを真夏に登った。この山は下から登るにはあまりに奥深いので、五合目の田ノ原山荘から剣ヶ峰、継母岳を越えて三浦山へ下った。這松の海を越えた片隅に三角点標石がひっそりとあつた。

残雪期に快適に歩いたのは小高沢山である。徳本峠から島々谷へ下る時、右岸にみえる大きなピークで、徳本峠から往復した。島々から小高沢山の南面を経て尾根伝いに徳本峠に至るのがかつての上高地入りのルートだという(横山篤美著『上高地開発史』)から、無雪期にもう一度歩いて検証してみたいものである。やはり残雪期の上千枚山(南アルプス上河内岳東尾根)については「二四〇〇メートル級の山」の伊谷山のところで書いた。

頂上からの展望のよいことが一般にはよい山の条件であろう。しかし頂上が森林に包まれて展望がまったく得られない山であっても、受けるインパクトが強ければ、それはそれ

で素晴らしい山だったといえる。南アルプスの丸山(大沢岳の北西)、キタ山(丸山東方の二三一一メートルピーク)、立俣山(鬼岳西尾根)はいずれもそんな山だった。しらび峠から北又沢の源流に向かって伸びる遠山林道から取りついた。どのピークも鬱蒼たる黒木の森林に覆われて展望皆無ながら印象は深いものがあった。

頂上からの展望が優れていればもちろんいいことはない。中央アルプス三ノ沢岳の南西、二三三八・七メートル三角点ピーク南の蕎麦粒岳は岩稜の山だけに展望のよい素晴らしい山だった。隣の三角点ピークも劣らず素晴らしいのだが、なぜか無名峰である。滑川の二ノ沢を詰め、三角点ピークを越えて蕎麦粒岳に至った。黒部川の右岸、猫又山の「猫の踊り場」はぜひ訪ねてみたいところだった。清水岳から這松を分けて下ると夏草の中に熊の踏み分けが現れた。猫の踊り場周辺には、六十数年前にここを訪れた塚本繁松氏の記録(『山岳』第二六年第三号「黒雁川柳又谷」)が描写しているとおり、花の群落と熊の多い自然がそのままに残っていた。

以上の山はいずれも単独で歩いたものであるが、中央アルプス北端の大棚入山は本会のメンバー数人と登

り、筆者にとつては珍しく賑やかな山だった。熊除けの鈴を下けている者もいて熊には失礼してしまった。ここにあげた山はいずれも深山幽谷の趣に満ちたものばかりである。このような山がまだ日本にも残っているというのは嬉しいことであり、いつまでも静謐を保っておきたいものである。

## ウエストンが 著書をウォルトンへ

田畑真一

一九二六年(大正十五年)九月、ウエストンは『知られざる日本を旅して』(長岡祥三訳 新人物往来社)を友人の宣教師・ウォルトンに贈っていた。それも見返しに署名などが入っている。訳をつけてみると「W・H・マリイ・ウォルトン様へ、著者より感謝を込めて、ウォルター・ウエストン 一九二六年九月」程度の意味である。

この署名入り本は日本山岳会図書室所蔵である。山崎文庫にあるから旧所蔵者は山崎安治である。しかも東京・神田の一誠堂のシールが貼られているから、何らかの経緯が考えられる。

一九二六年というと、ウエストン

## 海外の山

### ロシア流儀

江本嘉伸

アナトリー・ブクレイエフの名は九六年五月十〜十一日のエベレストの悲劇の際、一躍知られるようになった。

スコット・フィッシャー隊のガイドとして参加したブクレイエフは、山頂に誰よりも早く到達し、サウスコルへ真っ先に帰った。嵐の中で彼は動けなくなった隊員(六万五千ドルを払ったクライアントでもあった)たちの救出にあたったが、その日の彼の行動が、隊の安全のために適切であったかどうか、一部から批判が出た。

九七年春、ブクレイエフは別の話題で登場した。  
まず、インドネシア陸軍登山隊の助っ人として、再度エベレストにやって来た。インドネシア軍は、ヒマラヤを熟知したブクレイエフら三人のロシア人登山家をインドネシアに招き、**「傭兵」としてASEAN国**

初のエベレスト・サミッターの誕生への協力を依頼したのである。

隊員たちはやる気十分で、ブクレイエフに対しても、その実力に敬意を払った。その結果、シーズンのトップを切って、四月二十六日にはインドネシア隊の二人のメンバー、ミシリン、アスムジオノが三人の「傭兵」とともに登頂した。ブクレイエフにとっては、三度目のエベレストだ。彼の真の登山は、その後が始まった。ローツェ、エベレストとトラバースして北のチベット側に下りる「大横断」計画を抱いていたのだ。

いったんカトマンズまで下りたブクレイエフは、ローツェのベースに戻り、トラバース計画の相棒、イタリア人のシモーネ・モロと五月二十六日、西壁の通常ルートからローツェに登った。

この時、強靱を誇るブクレイエフは珍しく体調を崩していた。カトマンズで風邪が何かにかかったらしい。エベレストどころではなくなり、二人は下山した。

ヒマラヤでは、通常「登頂ルートからの下山」が鉄則である。ブクレイエフは、横断を実現するため、イギリス公募隊のエベレスト、カザフ隊のチベット側からの登頂、そしてローツェ登頂の三つの登山許可証に

自分の名を含めていた。が、二国にまたがる登山は政治がからむ。大横断を実行したら問題となっただろう。ブクレイエフとともにインドネシア隊を指導したウラジミール・バシキーロフも、大物を狙っていた。ローツェから未踏のローツェ中央峰(八四一〇メートル)へのトラバースを計画したのだ。やはり五月二十六日に登頂したが、彼もカトマンズ帰りで、体調を崩していた。中央峰へのトラバースどころか、視界不良の中で八〇〇〇メートルまで下ったところで力尽き滑落、息を引き取った。

バシキーロフは九四年春にアマ・ダプラム南東壁を初登攀、同年十二月にはアンナプルナ南峰(七二一九メートル)の冬季登頂に成功するなど数々の困難な登攀をやったベテラン。八〇〇〇メートル峰も六座登っている。

ブクレイエフやバシキーロフのようなロシア人(あるいはカザフ人)登山家は、ここ数年、ヒマラヤに新たな流れを作りつつある。

資金調達のため、助っ人やガイドとして公募隊などに入り、その合間に自身の挑戦的な登山をやっている、いわば「新ロシア流儀」。やり方に批判も聞かれるが、その実力は認めないわけにはいかない。



俳句  
知床羅臼岳

広渡敬雄

山莊の髯のおやぢの茸鍋きのこのなべ

熊避けの雑音多きラジオかな

清水湧くあたり岳樺黄葉もみぢかな

雪溪の一人の影の起たちにつけり

国後くぬしへ這松傾むかぐ霧水かな

悴みて登頂時刻のみ記せり

霧晴れて膝の高さに遭難碑

捨て番屋らし四五頭の鹿がある

俳句

木暮先生碑前懇親会と

黒富士登山

川崎精雄

雨の中ほととぎす啼き木暮祭

鮎岩魚鱒やまめ焼く大樺火

が四冊目の『日本』（未邦訳）を発行した年であり、ウエストンはその序文中で、ウォルトンに謝辞を述べている。ウォルトンとの交流の深さがしのばれる。

当時、ウエストンはすでに英国に帰国しており、ウォルトンは来日中だった。海を越えて郵送されたことが考えられる。

こんなわけで、この本はウエストンからウォルトン、一誠堂、山崎と渡り、さらに日本山岳会へと所蔵者を変えていったことが判明する。

なお、以上については些細なことであるが、島田巽らの「W・ウエストン年譜その4」（『山岳』第八四年）にも記事がなく、因みに紹介させていたたくものである。

別記・先人のお名前を敬称略とさせていただきました。

山の展望と地図の  
フォーラム・FYAMAP  
の表彰と楽しみ方

多田真弘

日本山岳会のデータバンク委員会  
でゲスト講演をしていただいた田代  
博氏の主宰する「山の展望と地図の  
フォーラム・FYAMAP」が、六  
月三日の「測量の日」に国土地理院

長から表彰された。

同フォーラムは登山を単なる山登りだけではなく、山岳展望や地図を視点の中心におき、広く文化的な「マウンテナヤリング」として楽しむメンバーによって構成され、JAC会員も数多く参加している。

今回の表彰は、JACでの講演会で紹介されたようなパソコンによる数値地図の利用、普及促進に多大な功績があったこと、また地図に関する情報利用などのいわば市民レベルでの有効活用が評価されたものである。

同フォーラムには国土地理院の地図を販売する「日本地図センター」の広報ページともいふべき会議室も設置されている。地図発行に関する情報が提供されていると同時に、間接的ながら国土地理院への要望や質問を行うことができる。同フォーラムのデータライブラリには数値地図を利用するパソコンソフトをはじめ、多くの地図、山岳関連の文献データ、富士山に関する話題など、多くの情報が登録・公開され、JACで進めようとしているデータバンク構築にも参考になるものが多い。

FYAMAPはインターネット上でもホームページを開設している。内容紹介のほか、関連リンクをリストアップしているので、このホームページ

を見るだけでも価値がある。

FYAMAPへは二フティサーバーメンバであれば自由に入会できるので興味のあるJAC会員は、まずインターネットを一覧することをお勧めしたい。

URLは <http://www.niftyserve.or.jp/forum/fyamap>

多田真弘 Niftyserve QFH01627

再び映画「マナスルに立つ」  
を見て

芳賀孝郎

昨年の晩餐会の折、マナスル登頂四十周年記念で映画「マナスルに立つ」を、幸運にも再度見ることができた。

榎隊長の元気なお顔、四十年前の隊員の若いお顔にお会いできて懐かしく思った。とくに榎さんのマナスルを眺めていらっしやる姿、サマの住民との交渉時の渋いお顔、独特のトーンの高い声、とつとつと話される言葉を聞くことができ嬉しく思った。

この映画のできる頃、私は学生でヒマラヤ登山を目指していた。胸をときめかし、感動して「マナスルに立つ」を見た。当時、榎さんからマナスル登頂の映画の題名をなぜ「マ

岳仰ぐ岳人の碑や遠郭公

黒富士の彼方残雪富士聳ゆ

黒富士と呼ぶ山躑躅彩れる

岩を攀つ咲ける躑躅に触れもして

俳句

山開き

北川蘇遊子

その麗姿五月の風に小国富士

黒富士に人の列なし山開き

神衣まとへば禰宜に山開き

御神酒を一口頒ちに山開き

春りんだう臥牛の如き牧の岩

放牧の日を待つばかり山万緑

溪音の五月を奏つ小国富士

山裾の牧のひろがり時鳥

遠郭公登山の疲れ温泉に癒し

第33回

観光週間

8月1日～7日

実施目標

1. 観光道徳の高揚
2. 観光地の美化
3. 健全な観光旅行の促進

総務委員会

ナスルに立つ」と決めたかという話を聞き、強く印象に残っている。

マナスル登頂について榎さんは一九五〇年人類初の八千メートル峰・アンナプルナ征服、一九五三年世界最高峰・エベレスト征服等の征服という言葉を言うことに強く反対されていた。榎さんは、大自然の山を人間が征服できるものではない、運よくマナスルの頂上に立つことができたと感謝の気持ちを主張されていた。榎さんの自然を敬愛する思考が、マナスル登頂の映画の題名を決めた私は記憶している。

当時、血気にはやって登山をしていた私は、榎さんの自然に対する思いやりの気持ちをよく理解していなかったと思う。

一九九一年十一月、私は東京で開催された山岳環境保護国際シンポジウムでライホルド・メスナー氏の講演を聞いた。メスナー氏は、汚されていない自然に身を置くことで、人間は一人になれる。自然と調和を保てるような環境に身を置くことで、山から多くの教えを受け、山との対話ができる、と話された。この話を聞いている時、榎さんの自然に対する姿勢を思い出し、洋の東西を問わず山を愛する人の共通点を知ることができた。

昨年八月、カナディアン・ロッキ

ーのアルバータ峰を学生時代の仲間と登りに行った。

岩峰アルバータのジャパニーズルートは、依然として七十一年前と同じクローアールから頂上へのルートとして残されている。私は仲間がそのクローアールの岩壁に取りついて悪戦苦闘を強いられているのを双眼鏡で眺めていた。七十一年前、榎さん一行がこのルートが無数にあるクローアールの中から見つけ出し、初登頂したことの偉大さをひしひしと感じ、榎さんの偉業に心から敬意と賛辞を贈った。

一九二五年のアルバータ隊は、頂上で万歳も唱えず、ただ無言のまま仲間とお互いに握手をして喜びを交わした、と登頂記に記している。そして外国の山では旗を振ったり、万歳を唱えたりする性分ではないとも述べている。

また、榎さんはこの登山に石油コンロを持参している。一九二五年当時にしてすでに自然保護を考えていた。榎さんはこのアルバータ遠征の旅行中も、一九五六年のマナスル遠征の船旅でも、キャラバン中も、若い隊員のマナーを厳しく指導されたのは有名な話。山での榎さんは、ご自身厳しい姿勢を取る自然保護の先駆者であった。

晩餐会で「マナスルに立つ」を見

ながら、私の四十五年の山登りの来し方を想った。そして私は、一九五六年のマナスル初登頂から四十年を経て、ようやくにして「マナスルに立つ」を話された榎さんの山登りを少し理解できるようになったのではないかと思った。

家では今、榎さんの「君子蘭」が例年より多くの美しい花をつけている。茅ヶ崎のお宅からいただいてきたから三十年以上になろうか。今年も花を見ながら、榎さんは天性の自然愛好の登山家であったばかりでなく、思索と瞑想と行動をもって自然にもっとも近づいた人であったことに、改めて思いを巡らせている。

味の技、心でつくる



- むさし坊 日比谷店 (東宝ツインタワービル9F)  
千代田区有楽町1-5-2 ☎03-3504-1905
- むさし坊 麹町店 (有楽町線麹町駅隣)  
千代田区麹町4-2-6 ☎03-3230-2313
- むさし坊 神田西口店 (神田西口通り商店街)  
千代田区内神田2-9-9 ☎03-3252-5015
- 友藤ゆうげん (半蔵門線半蔵門駅3分)  
千代田区平河町1-3-12 ☎03-3288-5891

むさし坊 番町店 (日本TV通り五番町交差点角)  
千代田区六番町4 ☎03-3234-3357



残雪を踏み分けて登った伏美岳頂上

**北海道支部**

**日高山脈・伏美岳山行**

本年度最初の支部山行は五月十七日、十八日、北日高山脈の伏美岳（一



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

七九二メートル）で、尾根道の雪渓登山となった。

登山口から避難小屋までの偵察を数回行ったが、残雪と落石で通行できず、車で小屋まで入れたのは入山一週間前の五月十日であった。

当日は札幌、旭川と遠方からの参加者が多く、降雨と雪解け後の悪路が心配であったが、十五時過ぎ、予定通り全員山小屋に到着した。

雨音を聞きながらの夕食は、地元帯広の会員が用意したジンギスカン鍋と、五升徳利のお神酒で乾杯。明日の晴天を祈願し、九時には全員寝袋に入った。夜中の十二時、寒さで目を覚まし、ストーブに薪を補給しつつ空を見上げると、満天の星空であった。

出発予定は六時というのに、四時に起床した者もいる。昨夜の残りご飯とマイタケの煮込みうどんで腹ごしらえをし、定刻に出発。夏道を順調に進んで、三十分もしないうちに雪渓に出た。昨夜の雨でアイゼンを使わなくてもよい絶好の雪質である。一一五〇メートルから上は、登山道より南側に張り出した雪庇の傍らを快適なピッチで登ってゆく。

左側の妙敷山と伏美岳の鞍部を見下ろすあたり、北に剣山、芽室岳、南に十勝幌尻岳が見える。日高山山の真っ白な山々と、そして真っ青な

今年もさげふんで会いましょう

カールの谷底へ吸い込まれるような錯覚に陥る。

妙敷山と肩を並べるころは雪渓も急峻となり、心地好い汗も出る。トップはもう頂上に立っているだろうか。野ウサギの糞が点々と頂上直下まで続いている。樹林帯、喬木帯と過ぎ、午前十時、長老のK氏とともに這松に覆われた頂上に着いた。予定通り四時間の登高であった。

頂上からの眺望は素晴らしいの一言に尽きる。北にパイロ岳、東にトッタベツ岳、日高幌尻岳、南はエサオマントッタベツ岳、札内岳と数えきれない山々。厳冬期を含めて五度目の挑戦という「イゴよろしく」氏曰く「日高山脈の展望台・伏美岳に登らずして日高を語ることなかれ」とか。まさしく筆舌に尽くしがたい眺めである。融雪の合間からのぞく高山植物はウラシマツツジ、エゾイソツツジ、コケモモなどで、可憐な花はまだ見ることはできなかった。

昼食後、全員で記念撮影をして、十時四十分下山を開始する。雪渓は大部分が腐れ雪であったが、大股で快適に飛ばす。登りには気づかなかったが、残雪が切れて清流の音が

**岐阜支部**

**支部総会と滝波山登山**

四月十二・十三日、清流と静かな山間の里、板取村杉島の杉島荘で、

聞こえるあたり、エゾノリュウキンカが川幅一面に咲いていたのが印象的。山小屋到着は十一時十分、一時間半の下りであった。頂上は晴れていたのに、下界は今にも降り出しそうな空模様であった。(高橋桓志)



高木支部長の音頭で恒例の「バンザイ」

山と医療

中高年の高度順化

塩田純一

日本の山ばかりでなく、ヒマラヤでも高齢化が見られる。私が初めてヒマラヤを訪れた25年前には、ドイツ人やアメリカ人は80歳前後の杖をついた高齢のトレッカーが多かったが、日本人は若者ばかりで不思議に思った記憶がある。しかし、今日では日本人の中老年トレッカーでにぎわっている。

もちろん、トレッカーばかりでなく遠征隊も20歳代はむしろ少なくなり、40歳、50歳代が主流となってきた。

と、エベレスト街道を例にとると、20歳代のころは、私もカトマンズ近郊のラムサングーから2～3週間かけてベースキャンプに高度順化しながら何回か歩いた経験があるが、今50歳近くなり同じことをすると、ベースキャンプに着いた時には、高度順化はできたが、疲労感を残してしまっ、という結果になりかねない。それで、最近では飛行機やヘリコプターを利用し、事前にシャンボチェ、タンボチェ、ロブジェ、アイランドピークなど4000mから6000mくらいのところで高度順化し、日本に戻って2～3週間休養、あるいは残った仕事を片付けて、再び高所に上る方法をとっている。

2年前のナスルや今年のエベレストもこの方法でベースキャンプ入りを行ってみたが、中高年にはこの方法が適当と思われた。

平成九年度の岐阜支部総会と滝波山登山が、会員、会友三十五名が参加して開催された。  
高木崎男支部長から「岐阜支部発足以来三十七年間、事故もなく登山活動を続けることができた。これからも低山と藪山へ登る機会が多いが、事故が起きないように、読図、観天望気など日ごろから訓練し、日本山岳会の会員にふさわしい支部会員であってほしい。万が一の事故に備えて、

日本山岳会団体傷害保険に多数加入してほしい」と挨拶があった。議事に入り、新しく副支部長、総務を設け、山行では国内と海外とに分けて担当することにした。新しい役員は堀義博(総務)、久野菊子(集会)、西篠好迪(自然保護)、藤井法道(海外登山)、玉岡憲明(一般)を選任。平成九年度事業計画など六議案を原案どおり可決した。  
懇親会では、乾杯の音頭の指名を

受けた松井名誉支部長が「昭和五十年六月に今西錦司先生と数人のメンバーで滝波山へ登ろうとしたときのこと、途中で雨が降り出し、木の下の雨宿りをしている間に、メンバー中の釣り名人が、岩魚を数十匹釣って帰ってきた。今西先生は河原の枯れ木を拾い集め、岩魚を焼いて酒の肴とし、宴を開いた。残った岩魚を杉島荘に持ち帰り、骨酒にして二次会を盛大に催した」と、今西先生の元気な頃の滝波山の逸話を話された。その後乾杯し、杯を酌み交わして懇親を深めた。

四月十三日は、穏やかな登山日和に恵まれた。滝波山は藪山で、江戸時代から板取村島口から白木峠(県境)を越え、越前(福井県和泉村)へ通ずる交易路として明治の中頃まで往来があった。しかし今では、その踏み跡をとどころに見ることができないもの、いたるところで崩壊している。白木峠から頂上(一四一二)までの標高差約二五〇メートルは熊笹などに覆われている。

杉島荘を三十九名が自家用車に分乗して七時に出発。滝波谷右岸の島口林道終点に車を止め、七時三十分に登り始める。右岸の歩きやすいところを溯行し、途中から古道に取りついた。鉦部隊数人が先頭に立ち、杖を切り払って道をつけ、登ってい

く。古道は谷へと降りていて、その谷の二股で大休止、ちょうど九時である。これより古道と分かれ、滝波山頂上から南へ派生している尾根へ取りつき、藪を切り払って登ること二時間、全員十二時に頂上へ立つことができた。頂上の周囲五〇メートルぐらいは残雪に覆われていた。高木支部長の音頭で「滝波山バンザイ」を三唱し、昼食。  
遠くの山並みは霞んでいたものの、近くの屏風山、左門岳、平家岳、それに高賀山などを望むことができた。十三時、下山にかかり、十六時に登山口へ全員無事帰着、散会した。

(清水彦彦)

アメリカ本土最高峰4,418メートル

MT.ホイットニー登頂と  
デス・バレー、ヨセミテ国立公園8日間

●東京・大阪発着 増設

●8/24・9/8・9/11発

¥388,000~¥435,000

運輸大臣登録一般旅行業第490号/日本旅行業協会正会員  
アルパインサービス株式会社

本社/〒105 港区新橋2-13-8 新橋東和ビル5階TEL.03-3503-1911

●8/11より新住所 〒105 港区西新橋1-12-1(西新橋1森ビル)

大阪 ☎06(444)3033 名古屋 ☎052(581)3211 福岡 ☎092(715)1557

## 図書紹介



イラスト 野田四郎

内田嘉弘・著

### 「京都丹波の山」上下巻

標高千メートルにも満たない山々の連なりだが、「北山からヒマラヤへ」と京都の岳人の多くを育て上げ、四季それぞれに豊かな魅力を秘める京都北山。著者も京都北山から育ち、ヒマラヤの峰々をめぐり、そして今もこれら京都北山をこよなく愛し、歩き続けている。

「京都丹波の山」では、上巻で旧山陰街道(国道九号線)沿いの山々を六十七山。下巻では旧山陰街道から東北に広がる広大な丹波山地(丹波高原)の山々を、丹波広域幹幹林道の建設による自然破壊として論争の的となり、京都府の自然環境保全地域第一号指定となった片波山周辺に至るまで、七十二山を各町村別に分

けて紹介している。

本書は京都北山の概念を大きく広げ、いままであまり紹介されたことのない山も多い。古い苦道をたどり峠を越えて山頂に至るさまざまな自然の描写と的確なガイド、随所に歴史や文化に触れるコラム欄を設け、各山ごとのスケッチと写真、それに詳細な概念図と時間記録により、ページを繰るにつれ、山々の情景が実際に歩いているように伝わってくる。

著書にはほかに『京都滋賀南部の山』があり、いずれも静かな山行が楽しめる近郊の山々の好ガイドブックとしてお薦めできる。(岡田茂久)

上巻・一九九五年二月 二四一ページ 下巻・一九九七年四月 二六七ページ いずれもナカニシヤ出版 発行 A5判 各二千円

### ベルク (Bergr) '97

ドイツ・オーストリア・南チロル山岳会『年報』第一二二。恒例の付録地図と巻頭エッセイ三篇はシュトゥバイ・アルペン。世界の山々の遠征記録「遠方と未知に惹かれて」はダイヤモンド・タワーを登りきったヌプツェ・イーストI他七篇。次の「冒険、体験、ファンのためのスリル」変化する山のスポーツ」七篇が面白い。飛行機、スノーボード、パ

ラグライダー、救助ヘリコプターなどと、現代の山遊びは多様である。

いつもながら羨ましいのは「歴史、文化、社会、環境」と「フィクション、風刺、あるいは仮性現実?」に載せられた興味あふれるエッセイ十篇。こういうものをわが年報でも読みたい。(平井吉夫)

坂倉登喜子・著

### 「心に残る花の旅」

武蔵野の果ての小さな峠から、北海道・東北・日本アルプスのお花畑まで、四季折々に咲く花々との出会い、山行の喜びを写真とエッセイでつづる、まことに楽しい本である。とくにカラー写真が美しい。

副題に「とっておきの花の山・エーデルワイス咲く山」とあるが、本書でとりあげた「山と旅」は五十に及ぶ。薬師岳と早池峰山/イワウメ、角田山/ミスミソウなど、さらにエーデルワイスでは、レブンウスユキソウ、ヒナウスユキソウなど十種があげられている。

各山の登山コース、交通、宿泊なども記載されていて、案内書としても好適。(伊藤 敏)

一九九七年四月 実業之日本社発行 二五九ページ 二千二百円(税別)

田畑真一・著

### 「南アルプスの登山史」

本書は芦安村役場発行の「芦安村誌」中の七七ページを別刷りにしたものである。

南アルプスの中、主として芦安村域に入る白根三山、仙丈・甲斐駒ヶ岳や鳳凰三山について、江戸時代以前の宗教登山、明治における北岳への登路の開削状況、大正から昭和初期にかけての積雪期登山やバットレスの登攀、遭難などを述べている。

著者は村誌の編纂委員になって以来四年あまり、図書館や芦安村の資料などを調べた上、今は廃道となっているその昔の山道を歩いて石像物などの遺跡を探し出したり、当時の村長や山案内人あるいは山小屋の主などを訪ねて、日記や山案内手帳、山小屋日誌に基づいて記述したり、実証を心がけているのが特徴である。

ウエストンに関心の高い著者はウエストンが「南アルプス」の名付け親である事実や、彼の赤石岳や北岳の登山、さらに地蔵岳オベリスクの初登攀にも触れている。(中村純二)

一九九四年九月 芦安村役場発行

■訂正 六月号一九ページの関連記事中、頒価六百十円↓六百六十円、千二二八、Ⅷ〇四六二一五三三八九八九の誤りでした。訂正します。

柏瀬祐之・岩崎元郎・小泉 弘編

全10巻／新装復刊

# 日本登山大系

◆バリエーション・ルート・ガイドの集大成◆

◆利尻山から屋久島まで主要山岳の岩場・沢・冬期尾根ルート約4000を完全収録◆

◆豊富なルート図・概念図と詳細な解説◆

◆全国百数十に及ぶ精鋭山岳会、山岳部による執筆◆

岩崎元郎著 ●1700円

沢登りの本(新装版)



**白水社**

〒101千代田区神田小川町3-24・☎03(3291)7311 ©価格は税抜き

全巻内容

- ①北海道・東北の山 4700円
  - ②南会津・越後の山 4700円
  - ③谷川岳 4300円
  - ④東京近郊の山 4200円
  - ⑤剣岳・黒部・立山 4400円
  - ⑥後立山・明星山・海谷・戸隠 4400円
  - ⑦槍ヶ岳・穂高岳 4200円
  - ⑧八ヶ岳・奥秩父・中央アルプス 4400円
  - ⑨南アルプス 4500円
  - ⑩関西・中国・四国・九州の山 5200円
- 各A5判／平均320頁 (マツト45,000円)

# 会務報告

## 【五月理事会】

日時 五月八日(木) 十八時三十五分

二十時三十分

場所 日本山岳会会議室

出席者 村木会長、中村、斎藤、

宮下各副会長、大屋、中川、吉永、

大谷、伊藤、水野、南井、堀井、溝

口、山本、田邊、宇田川、熊崎各理

事、川崎、石橋各監事、小倉、大森、

村井、大倉、神崎各常任評議員

【委任】松浦、渡邊、大蔵各理事、

重廣常任評議員

\* 議事に先立ち、村木会長より、在

任中の協力に対して、謝辞が述べら

れた。

## 【審議事項】

(一) 支部長の交代の件 大屋

石川支部

増江俊三⇩津田文夫(六四五四)

京都支部

斎藤惇生⇩酒井敏明(四六五六)

承認

(二) ビデオ作品貸し出しの件 水野

限定保存のテープを除く山岳関係

ビデオ作品を、会員に限ってルーム

での閲覧(無料)及び貸し出し(有

料)を行う。作品リストなど詳細は

「山」に掲載。

承認

(三) 寄託資料の報告と期間延長の件

大屋

上越市長より、現在寄託中のツッ

グース族使用古代単板スキーの保存

状態(別添写真)と、継続して一年

間の寄託延長願が申請された。承認

(四) 委員会名簿提出の件 大屋

総会後、役員・委員会名簿を早期

に作成したいので、現理事、新理事

相談の上、六月五日を目途に新名簿

の提出をお願いする。了承

◎六月からの理事会の件 大屋

・理事会⇩第二水曜日

・常務理事会⇩第一水曜日

## 【委員会報告】

●総務委員会・中川

・五月十七日(出)グリーンホテル

十時三十分 支部長会議

十四時 通常総会

十六時三十分 懇親会(三千元)

支部長会議は会長、副会長、常務

理事で対応する。必要に応じて役員

に出席を依頼する。

・会員名簿発行 本年末⇩来年初め

・新委員会名簿 各委員会は六月二

日五日にメンバー提出を。

・日本山岳会のおしり 五月中に発

行の予定。

●集委員会・中川

・五月十一日 若葉会山行偵察

・五月二十四⇩二十五日 第二十一

回若葉会山行(薬師岳・和賀岳)申

退会

し込みは約八十名、秋田支部が協力。  
・六月二十六日 写真交換会(本会  
ルーム)

●自然保護委員会・大森

・本年度の第四回「上高地山研」自

然保護解説員プロジェクト(八月)

インタープリターの実施計画説明。

●図書委員会・南井

・五月十一日 第四回「古道を歩く」

筑波山を実施する。

◎全国支部懇談会の日程変更の件

越後支部より、会場の都合により

一週間繰り上げ、九月二十⇩二十一

日に実施する。詳細は「山」に掲載。

◎ネパール国交修復・マナスル登頂

四十周年記念切手の件 吉永

ネパール政府より、本会に一八R s

切手六十セット(一セット一八R s

×五〇)の預託があり、購入の上販

売する。一セット三千元

## ●会員異動

物故

三石武古三郎(八五五〇) 9・1・

八巻 寿(二二四三) 9・1・8

谷内 廣(三一九九) 9・4・6

玉川勝彦(一一〇五八) 9・4・20

徳島和男(六七二九) 9・5・5

盧 周孝(一一五八七) 9・5・22

宮田収蔵(一一〇一八) 9・5・29

吉田 勝(八五八五) 9・4・30

井上義郎(四三三八)

工藤 冲(二〇七二七)

川端浩文(九三二八)

岩井芳次郎(八八九二)

平井國之助(四四〇四)

草薙 隆(七七九五)

市川佐江子(二〇一八〇)

相川謙二郎(四四六七)

渡辺潤次郎(二一五八九)

堅田二男(一一四三六)

大江幸雄(二二八二七)

阿部健也(二二〇一四)

中山桃一(一一〇四七)

橋本源之丞(四七四五)

細井 淳(二〇五八六)

小泉章夫(二一五〇二)

和田佳明(二一九三四)

鈴木淳一郎(五四九四)

石井左右平(九八一七)

水科行雄(九二二三)

竹内玲子(二〇二二〇) 9・5・31

早川博信(一一〇五七)

高橋久廣(八七五三)

嶋崎晃一(二〇四二二)

江馬 諭(八二九七)

久野木誠(九〇〇九)

山名尚美(二一七〇六)

藤田 武(二〇六八三)

明治大学駿台山岳部(八二二二) 改姓

宮原敬子(一一三七〇) ⇩近藤

# ルーム日誌

高澤瑠美子(一一六一九) ↓ 石川  
終身会員  
松本健夫(四六〇七)  
本間兌二(四六一五)  
古田修司(八二八七)  
三木 亮(四四八六)

- 5月 アルパインスケッチクラブ
- 6日 常務理事会
- 7日 常務理事会
- 8日 理事会 集委員会 学生部
- 9日 フォトビデオ委員会
- 12日 総務委員会 山げらの会
- 13日 二火会 アルパインスケッチクラブ 95同期会
- 14日 常務理事会 93同期会
- 15日 科学委員会
- 19日 アルパインスキークラブ 資料委員会 図書委員会
- 20日 集委員会 フォトビデオ委員会 百年史委員会 山研委員会
- 21日 三水会 アルパインスキークラブ
- 22日 理事会
- 26日 総務委員会 図書委員会
- 29日 科学委員会 図書管理委員会
- 31日 学生会 96同期会 海外委員会

5月来室者580名

## INFORMATION



### ◆第二十六回山岳史懇談会

図書委員会

H A T J の招きで来日されたヒラリー卿に講演をお願いしました。豊富な体験談をスライドを交えて語っていただきます。

講師 サイ・エドモンド・ヒラリー  
日時 八月二十七日(水) 十七時〜十八時  
場所 昭和女子大学グリーンホール

世田谷区太子堂一七五七  
TEL・〇三三四一一一五一一一  
入場料 千円(入場券は事務局にて販売、当日会場でも販売)

\*講演は同時通訳で行います。  
\*一般公開(非会員も可) 参加自由  
\*講演後十八時三十分よりレセプション(会費八千円)当日会場で開催します。

◆詳細はルームに掲示してあります。  
◆全国支部懇談会開催のお知らせ

主管・越後支部

今年是新潟県松代町で開催します。日程

・九月二十日(土) 新潟県東頸城郡松代町蓬平・芝峠温泉(レストビレッジ峰)で懇親会  
・二十一日(日) 懇親登山(刈羽・黒姫山(標高八八九メートル・一般向き))

登山後宿舎に戻り解散  
費用 一万三千元(宿泊代、懇親会費、弁当代、連絡費など含む)

申込 住所、氏名、性別、年齢、電話、会員番号、所属(本部・支部名) 宿泊所への来場方法(自動車、電車の場合北越北線松代駅からの送迎バス希望の有無)を明記の上ハガキで

千九五七新発田市大栄町五一八一五 田邊信行方 日本山岳会越後支部事務局宛  
締切 八月十日必着 定員百名  
\*申込者へは詳細案内を送付します。

◆一九九七年度自然保護全国集会  
自然保護委員会  
\*申込者へは詳細案内を送付します。

◆錦秋の秋田駒ヶ岳へ  
ジャック93会  
日程 九月二十七日(土)〜二十八日(日)  
目的地 秋田駒ヶ岳・乳頭山

◆全国支部懇談会開催のお知らせ

宿泊 黒湯温泉(Tel・〇一八七一一四六二二二四)

会費 一万五千元  
申込 千二四八 鎌倉市常盤一〇二〇六 大場悠平宛  
締切 八月二十九日

訂正 6月号(六二五号)の三ページ二段六行目「開催され」を「開催されるというので」に、一九ページ一段三行目AUAをUAAに訂正します。

### ◆編集後記◆

名編集長・伊藤敏さんのあとを受けて、重い仕事をお引き受けすることになりました。全ての会員に資するよう心がけるのは当然ですが、二十一世紀へ向けて、若い芽の台頭も真剣に考えていかねばならないと思案しております。

会員の皆さまのご協力、何卒よろしく願います (村井 葵)

日本山岳会会報 山 626号

1997年(平成9年)7月20日発行  
発行所 社団法人日本山岳会

〒102

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京 (03)3261-4433

FAX 東京 (03)3261-4441

発行者 斎藤惇生

編集人 村井 葵

印刷 株式会社 双陽社